

園だより

運動会号

2019年9月11日



運動会、たくさんの育ちがあります

園長 馬見 雅子

昨年改訂された幼児教育要領には、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」が示されるようになりました。この姿は、到達目標ではありません。一人一人の発達の特性に応じて育っていくものであり、皆が同じように育つものではないということに留意しています。また、この10の姿は、一つの分野だけを取り上げて指導するのではなく総合的な指導として行うものであり、幼稚園教育として、環境を通して、遊びを通して、発達の時期を捉えてふさわしい経験を積み重ねていく事が大切であると捉えています。

運動会では、10の姿のどれが育っているのでしょうか。

健康な心と体 …やる気を持って楽しく取り組む、体を動かすことを楽しむ。

自立心 …競技に挑戦する、あきらめずにやり遂げる、達成感を味わう、自信を持つ。

共同性 …「おみこしわっしょい」などで相談したり、力を合わせたりする。

道徳性・規範意識の芽生え …きまりやルールを守る、自分の気持ちを調整し友だちと運動会に取り組む。

社会生活との関わり …家族の応援、小学校との関わり、お借りした施設を大切に使う、年長児の係活動。

思考力の芽生え …「おみこしわっしょい」など競技で、おみこしのデザインや、作戦を考える。

自然との関わり・生命尊重 …屋外での練習の中で、天気や雲の動きなどに関心を持つ。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 …チームや競技の人数あわせ、玉入れ、おみこしの形等。

言葉による伝え合い …チームの相談で意見を言う、様々な場面で友だちと声を掛け合う、応援をする。

豊かな感性と表現 …大勢の人の前でリズムやヨサコイなどの表現を楽しむ。

ほんの一例ですが、以上のように、運動会、そして運動会に向けての取り組みは、大きな総合的な学びに繋がり、10の姿全てにおいて育ちが見られるのです。

運動会当日は、子どもたちの様々な姿が見られることでしょう。笑顔で喜びを表す子、自信を持って取り組む子、当日まで頑張ってきた子、張り切って自分のやるべきことに取り組む子、反対に恥ずかしがる子、緊張する子…。しかし運動会の育ちは当日だけの姿ではありません。上記にあるような多くの育ちがあるのです。そして運動会後も育ちが続きます。

さあ運動会当日！一人一人の成長に思いを馳せ、温かい拍手と声援をお願いいたします！